

次の文を読んであとの問に答えなさい。

①田んぼで魚や水鳥を捕ったり、マメやムギを作ったりすることは、かつての稲作農家の人たちにとって、生活するうえで大変に重要なことでした。そうしたことを理解することは、工業化する以前の日本人の暮らしの歴史を考えるうえで欠くことができません。そのことは、これまでの歴史の研究ではまったく考慮されてきませんでしたが、田んぼでの漁労や狩猟、そして畑作といったことは、稲作を中心とした社会をその1根本の部分で支える力になっていたといえます。

田んぼの面積は、日本では②戦争などで一時的に減ることはあっても、基本的には昭和四十年代まで増え続けていました。そして、明治時代には田んぼの割合が耕地全体の九〇パーセントを超えるような地域が各地に2あらわれてきました。いわゆる、コメを作ることに3せんもん化した稲作単作地です。このように、日本人を稲作民族に向かわせたA原動力のひとつに、言いかえれば多くの日本人が稲作を4自ら③積極的に選んでいった理由のひとつに、田んぼが持つ隠れた力がありました。それは具体的には、田んぼだからこそ可能となった漁労や畑作など、農家の生活を支える仕事でした。

稲作技術の水準が上がり、その結果として農家の暮らしが稲作へ集中するようになっていくと、おのずと稲作にかかわる仕事量が増えていきます。農家の人びとの暮らしのイ大半が、稲作活動によって占められるようになります。それは、時間や労力など日常生活のすべての面におよびました。さらに、それは人びとの生きがいや信仰、世界観といったことにまで大きな5えいきょうをあたえました。こうして稲作にかかわる文化は、日本の社会全体をおおうまでになりました。たとえば、正月になると、現在でもたいていの家でお供え餅を飾り、雑煮を食べますが、そうしたことは稲作文化の一つといってよいでしょう。

稲作に適した条件を6そなえたところでは、自然の環境は、田んぼが新たに作られることで大きく変えられました。ことに

水辺は、田んぼのための用水路やため池として整備されていきました。そして、生きるための仕事全体に占める稲作の重要性が、それまで川や山などでおこなわれてきた狩猟・漁労・畑作といった稲作以外の仕事に比べて、とびぬけて大きくなりました。その結果、稲作活動に忙しくて、そうした仕事はおこなうことができなくなってしまいました。

そのとき、稲作農民が生活を維持するために考えた工夫が、川や山でなく、田んぼの中で漁労や狩猟・畑作をおこなうことでした。④それは、魚捕りであれば水田漁労や水田養魚といったかたちでおこなわれますし、畑作でいえば田んぼにおける二毛作やアゼマメということになります。それは結局のところ、日本人が稲作の場として畑ではなく田んぼを選んだことが、稲作をしながらも同時に畑作・漁労・狩猟といった仕事をおこなうことを可能にしたのだといえます。

田んぼは、季節や水の有り無しといった状況に応じて、⑤漁場や猟場そして畑にも姿を変えることができました。そうしたことを可能にしたのは、自ら鋤^{くわ}を手にして田んぼを耕してきた農家の人びとが持つ知恵であったといえましょう。そうした知恵は、日々の農作業の中でうつちかわれたものであり、日々の経験から獲得されたものです。

田んぼにはそのような隠れた力があり、かつそれを引き出す農民の知恵があったからこそ、日本において稲作がこれほどまでに文化的・経済的に大きないききょう力を持つことができたと考えられます。

【中略】

田んぼで漁労や狩猟・畑作もおこなうといった稲作農民の知恵は、昭和初めのころまで日本の稲作農家が食料の多くを

I	できたひとつの要因です。また、こうした稲作にもなつて生まれた生業は、食料の	I
---	---------------------------------------	---

を保ちながら稲作に集中するという生活を可能にした最大の要因でもあります。

田んぼにおける二毛作やアゼマメの栽培は、年貢(昔、年ごとに領主に7おさめた税)や小作料として取り立てられることの多かったコメに代わり、ムギやマメといった農家にとっては欠かせない主食物や副食物をaもたらしてくれたのです。

また、田んぼでの漁労や狩猟は、魚や水鳥の肉といった、稲作農家にとっては自分で作ることでできないものをもたらしにくれました。そして、それは、稲作を中心とした生活では不足しがちな動物性タンパク質やカルシウムの確保に役立ちました。

⑥日本の稲作農家が牧畜を必要としなかったのは、そうした背景があつてのことだといえるでしょう。少なくとも、田んぼにおいて漁労や狩猟がおこなわれていれば、これまで言われてきたように、昭和初めのころまで稲作農家は動物性の食物が8きよくどに不足した状態にあつたとは考えられません。

しかし、田んぼを利用してムギやマメを作り、また魚や鳥を捕ることで食料を自給するという暮らし方は、早いところでは明治時代に、遅くとも昭和の高度経済成長のころには失われてしまいます。田んぼはコメを作るだけの場所になり、⑦人びとは田んぼから得ていたコメ以外の恵みを手放しました。それは、コメの生産性を上げ、稲作における労働の効率化を進める現代の農業には合わなかったからです。また、食事の西欧化といった食生活の変化など、農村の生活自体が変わったことも大きな要因です。

田んぼには、日本が高度経済成長する一九五〇年代後半以降、化学肥料や除草剤などの農薬が大量に使われるようになり、また大型の農業機械が用いられるようになりました。その結果、田んぼにはもはやドジョウやタニシなどの生物はすまなくなり、また手間をかけても、それに応じた収入が見こめない二毛作のムギや、農業機械を動かす時のじやまになるアゼマメの栽培は、田んぼから姿を消していきました。

田んぼで魚や鳥などの生物を捕ることができなくなったことに加え、稲作農家ではお金を稼いで農業機械や化学肥料の代金を支払わなくてはならないため、収入に結びつかない二毛作やアゼマメの栽培はやめて、会社や工場に働きに行くことが多くなったのです。こうして、⑧高度経済成長以後の日本の稲作は、工業により支えられたものになりました。

田んぼの歴史を考える時、田んぼという環境に9てきおうして、そこをすみかとする動植物の存在は重要です。田んぼにおいてさまざまな生物が関係し合って暮らす場を「水田生態系」と呼びます。A、田んぼにはトンボの10ようちゅうのヤゴなど多くの虫が暮らしますが、それを食べるカエルやタガメがおり、Bそれを食べるにヘビや、サシバのような鳥がやってきます。稲作農民は、そうした水田生態系にいる生物を、暮らしの中で生業や遊びに利用するための工夫をさまざまにしています。それは、まさに田んぼの環境を多面的に利用するもので、人びとが日常の暮らしの中で生み出し伝えてきた技術といつていいでしょう。しかし、9そうした技術は、前に述べたように、日本の場合、一九五〇年代後半に始まる高度経済成長とともに急速に失われてゆきました。

現代において、田んぼでの漁労や狩猟を考える時、まず注目されるのは、近年さまざまなところでおこなわれている自然保護とのかかわりです。たとえば、かつてはどこでも当たり前に目にするのできた田んぼでの漁労や狩猟をもう一度、「⑩ワイズ・ユース」として見直そうという自然保護の考え方があります。それはとくに一九九〇年代から、日本において目立つようになりました。英語のワイズ・ユースをそのまま日本語に訳すと、「賢い利用」となりますが、もちろんその意味だけではありません。

ワイズ・ユースとは、地域において長く伝えられてきた暮らしの中の技術は、Cそれが魚や鳥を捕るようなものであつても、その地域の自然を守るのに役立ってきたという考え方です。ひと言でいえば、自然と調和した暮らしの技術ということになります。田んぼでの漁労や狩猟が、まさにそのワイズ・ユースとしてbあらためて評価されるようになってきました。こうした技術は、人と自然がより良い関係を築こうとする時、さまざまな手がかりをあたえてくれるものと期待されています。

（『田んぼの不思議』 安室知）

一、

||

1
10 のひらがなは漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。(送りがなも書くこと)

- | | |
|----|-------|
| 1 | 根本 |
| 2 | あらわれる |
| 3 | せんもん |
| 4 | 自ら |
| 5 | えいきょう |
| 6 | そなえる |
| 7 | おさめる |
| 8 | きよくど |
| 9 | てきおう |
| 10 | ようちゆう |

二、
ア・イ・ウの意味を書きなさい。

ア 原動力

イ 大半

ウ つちかう

三、
a・bの言葉を使って短文を書きなさい。

a もたらす

b あらためて

四、次の問いに答えなさい。

問1 — ①「田んぼで魚や水鳥を捕ったり、マメやムギを作ったりすること」とありますが、この部分を言いかえている文を、本文から十六字で抜き出しなさい。

問2 — ②「戦争などで一時的に減る」とありますが、戦争でなぜ減ってしまったのですか。理由を考えて書きなさい。

問3 — ③「積極的」について、例にならって、(1) (4) の語句の対義語を書きなさい。

例) 積極的 ↑ ↓ 消極的

上昇	↑ ↓	(1)
消費	↑ ↓	(2)
特別	↑ ↓	(3)
直接	↑ ↓	(4)

問 4 — ④「それ」は、何のために行われるのですか。

問 5 田んぼが — ⑤「漁場や猟場そして畑にも姿を変えることができ」たのは、何があったからですか。五字で抜き出しなさい。

問 6

I

に入る熟語を書きなさい。

問 7 — ⑥「日本の稲作農家が牧畜を必要としなかった」とありますが、なぜですか。

問 8 — ⑦「人々は田んぼから得ていたコメ以外の恵みを手放しました」とありますが、なぜですか。理由を二つ、挙げなさい。

問9

——⑧「高度経済成長以後の日本の稲作は、工業により支えられたものになりました」とありますが、どのようなことですか。(a) (b) (c) (d) (e) に、語群から適当な言葉を選んで説明を完成させなさい。

農業の (a) 化や (b) の使用などで稲作の (c) 化が図られ、その農業 (a) や (b) の代金を支払うために、農家が (d) や (e) に働きに行くようになり、工業の恩恵を受けることが多くなつた。

語群【漁場・工場・労働・機械・森林・農業・除草・効率・減反・会社】

問10

A

→

C

に当てはまる語句を、次の中からそれぞれ選んで記号で答えなさい。

ア たとえ イ さらに ウ まさに エ たとえば

問11

——⑨「そうした技術」とありますが、どんな技術のことをいっているのですか。三十五字以内で説明しなさい。

問
12

――⑩「ワイズ・ユース」とありますが、「ワイズ・ユース」とは何ですか。本文から十三字で抜き出さない。

